

たかやま共創ミーティング第4弾 2回目まとめ

テーマ：地域の宝である子どもたちに期待すること

日 時：令和6年7月31日（水）19：00～20：45

場 所：高山市役所 4階 行政委員会室

参加者：市民 4名（公募） ※1名欠席

市 市長、教育長、学校教育課長、協働推進課長、こども政策課長

内 容：1 「探求心」「自主性」について

2 意見交換

発言者	内容
市民①	テーマは探究でしたので、そのための環境づくりはできているかという点から話します。「学校が暑い」と思いませんか。学校は設定温度が「28℃」だそうで、窓も開いているそうです。教室内は私の体感では「30℃以上」です。そこで、子どもたちと一緒に部屋の温度を調節する体感をしませんか。という提案です。つまり子どもの体験学習ということです。政府は同じように「28℃」と言っていますが、これは室内温度のことであり、設定温度はもっと低くなっています。駅西のある店舗の設定温度は「24℃」なんだそうです。それでちょうど室温は「28℃」となるようです。今は暑さ指数というものもあり、「気温」「湿度」「輻射熱」が関係しているとのこと。暑さは、不登校にも関係しているのではないかと思います。子どもだけでなく大人も含めてメンタルヘルスが心配です。先生方も何か痩せているように見える。一番カロリーを消費しているのは先生方だと思うので…暑いと脳がオーバーヒートするし、イライラするのではないのでしょうか。心と体と環境が関わって、疲れがたまって「夏季うつ」という病気になるそうです。このような病気にならないようにするためにも体調に合わせた室温が大切です。WBGTは計算式が合って、子どもでも簡単にできる。室外と室内があって…この暑い今だからこそできることだし、子どもの対策はスピード感をもってやらないと。室温は、部屋によってちがうので、設定温度もそれぞれでよいと思う。室温が25℃の部屋もあれば24℃の部屋もあっていいと思う。それを子どもたちが考えて、室温が28℃になるように工夫をすればよい。
市民②	高校で部活動のサポートをしています。また、今までに25年間、ジュニアサッカーの指導を行ってきた。以前はトップダウンでやっていたが、それでは

市民③	ダメだと分かり、メンタルコーチの資格を取得し、ドラッカーのメンタルを学んできた。最近の高校生はとても優秀でヤンキーのような生徒もいない。言われたことはできるけど他のことはできない。また、きっかけを与えないいろいろなことができない。職場体験に来た時には配達しかできなかった。やっぱり他のことはできない。 昔は、人口増加につれて市場も拡大してきたが、今の社会は、毎年人口が減少傾向にあり、市場も縮小している。だから、昔の考え方のままいくのは非常に難しい。昔は、人と同じことをやると売り上げが上がったが、今はダメ。人と同じことをしていても儲からない。だから、探究が必要である。 いずれA Iの発展によって、今ある職業の64%はなくなると言われている。2020年の学習指導要領もアクティブラーニングへと変化してきた。これから変えていくな教育しかないと思う。 娘の様子から、教科書は変わったと感じている。教科書があれば1人で勉強できるようになっている。学校は互いに話し合うことを重視している。にじ色は非常によいと思う。探究に近いことをやっている。ただ、残念なことに15人だけ。どうせならこれを400人でやってほしい。どの学校も同じようにやればよいと思う。また、デンマークのような施設が高山にもあるとよい。大人と中間層が混ざるような… イノベーションでアイデアを出せというのではダメ。つまりひらめきはダメだとドラッカーは言っている。予期せぬことが起きるが、そこから始まることもある。産業構造や客のニーズ等も加味しながら、そよ風をつかむような知覚と感性が大切で、気づかないようなそよ風にも気づくようになりたい。 映画「夢見る学校」は見て感動しました。今、飛騨の匠入門プロジェクトというのをやっていて、職人の卵の学校で小学生と一緒に作る探究学習を行っている。45の枠に100人の応募があった。それくらい興味のある子どもがいる。飛騨には、学びたいニーズがある。地域お仕事発見隊についても100社からなるが、親の仕事をやってみたい、興味がある、見てみたい、やってみたいなど、いろいろな子どもがいる。ある中学校でも職場体験学習のような取り組みがあるが、自分の子どもは3年間興味がなくなるところに行くことになり、つまらないまま終わってしまった。もっといろいろな職場で行きたい職場で体験できるとよい。飛騨センターにおいて、音響と照明を見て、やってみたいと思い希望したことがあった。子どもがやりたいと思ったところに入れるような環境をつくってほしい。 防災教育を行っている。またまちづくりコンクールの審査員もやっている。子どもの創る作品は本当にすばらしい。興味は限りがないし、そういった興味をもてるようにするためにも多くの大人に接することは大切である。 飛騨には魅力があり、大好きである。酒や自然、祭りや人の温かさなど、たくさんの良さがある。そんな良さを感じるためにも、大人に接することで子ど
------------	---

	もを変えていく必要がある。そして、防災、家具、工芸などどんなことでもいいので、子どもの探究心に火をつけてあげることが必要。 わらべうたはたくさんある。100曲くらいある。飛騨人の感性と語学力は素晴らしい。飛騨の魅力のどの探究心に当てはまり火が付くのか。やはり大人との接する機会を増やすことが必要。
市民④	小学校等で絵本の読み聞かせをしているが、主人公になれない子どもが多いように感じる。また、脇役が多いとも感じる。探究心が損なわれてはいないか、今後も求めていけるか…先ほど話があった知覚と感性が五感を育てるのであると思う。頭の中の広がり、そして心の根っこを育てることが大切。子どもの五感を育てていけるように保護者はもちろん、幼稚園や家庭教育を充実させていく必要がある。
市民①	うちの子はゲーム世代であるが、いろいろなゲームを体験している。だからゲームでも強い。五感も豊かに育っていく。こういった豊かさや柔らかさなどもデジタルの中で融合していくこともある。 P T A総会において、今の保護者は全く手を挙げない。自尊心が低いのか。だから、P T A総会はつまらない。交流は何もない。ただ、学級懇談会は交流があるので、たくさん話すことができるし非常に楽しい。
市民④	アメリカでは、親は「木の上に立って見る」と書くことから、遠くから見守ることができる。日本はできないのが現状である。
市民①	先生も同じ。先生や支援員に子どもへの関わり方の研修をしてほしい。子どもも支援員も両者とも困っていると思う。
市民④	放課後児童クラブで、みんなの前で叱られていた。個別に呼んで指導すればよいのに。自尊心が損なわれるのでは。
市民③	以前学校現場で、給食配膳について怒っている先生がいたが、考えさせることが大切ではないだろうか。
市民①	学校の先生は、先回りして言うてしまう。子どもに考えさせてほしいし、考える時間をつくってほしい。
市民②	学校は時間がなさ過ぎる。タイト過ぎる。給食時間も短い。
市民①	先生の数も少ないと思う。支援員の数を増やせないか。そして、医療との連携も必要である。夜の会の開催の検討を。おやおやの会は医師や教育委員会等

	にもきていただいて開催予定である。 高山の人は、スルースキルが低い。まじめだから受け止めてしまって流すことができない人が多い。ストレスマネジメントをする必要がある。高山の人は優しいし感性が豊かなので、だから観光客もたくさん訪れる。高山の地は癒されるから。
市民④	子ども同士のケンカを「ごめん」で終わらせている。これではダメ。考えさせてしゃべらせて、発見させて解決させていかなければならない。
市民②	保護者がクレームをしてくるから苦しい。昔、指導をしていた時はトップダウンであったが、それではダメだと気付いてその後はボトムアップのスタイルで指導してきた。トップダウンの時は全国大会でひどい目にあった。岐阜県内では勝てるが全国では全く勝てない。それ以来、心理学を学んできた。脳から始まって、腸が影響している。ミネラルの吸収や腸内環境を整えることが大切である。また、眼球運動が悪い、メンタルトレーニングも必要。板書はタスクが多いので、ノートに写し書きするのは非常に大変である。 保護者の考え方を変えていく必要がある。与えているものがダメ。考えていかなければならない。だから、先生が難しくなってしまう。優先眼というものがある。知るだけで疲れない。
市民④	若い先生は2つに分かれる。熱量のある、人柄のよい先生はよい。働き方改革で工夫をしていける。子どもたちにとって差がないように。学校では子どもや保護者は、先生ガチャといっている。誰に当たるか分からないから。自分が望んでいる先生になるか分からないから。
市民①	夢見る学校は子どもが200人。ただし入学に180万円（寮に入る場合）。通える家庭は90万円。先生の数も少ないし、大人のエネルギーが必要。
市民②	夢見る校長先生は6人くらいいる。公立でも校則を0にした人が紹介されていた。
市民①	幸せかどうかは自分自身で決めているかどうか。夢見る小学校は自分で決めている。日本の小学校は、すべて決まっている。ニュージーランドは自己決定している。北欧や東欧はそのスタイルである。 マイノリティー（少数派）だと思っているが、保護者が幸せか考え感じる活動をしていくことが大切。
市民③	飛騨はいいところ。帰っておいでと言えること。保護者が幸せかどうか。住

	んでいる人が幸せかどうか。これは永遠のテーマ。
市民①	間違いが間違いではない。違うということの発見でありチャンスである。学校はそういう姿勢であってほしい。大人が知らないこと・職業に就く。ヘルプとサポートの違い。お腹が空いて困っている人に魚を与えるのがヘルプ。魚の釣り方を教えるのがサポート。教えてあげることが大切である。
市民②	大人が炭素（C）をどう育てるか。炭素は、育てようによってはダイヤモンドにも炭にもなり得る。高山市の宝である子どもをどう育てていくかが大切であり、市全体で育てていきたい。
市民①	子どもは宝、特別支援の子どもはエジソンの卵だと言っている。